

会員のみなさまへ

23サミット・キー・コンセプト 「R」について

過去の中小企業家サミット（正式名称：東京経営研究会含む）では毎回スローガンを定め、その掛け声のもと準備をし、当日を迎えておりました。しかし、今回の23サミットではスローガンを設けておりません。

代わりに英語のアルファベット「R」をシンボルに集うことになりました。



※ Rの文字の内側には可能性（Possibility）のPも含んでいます。

なぜ、それぞれの「R」を持ち寄るのか？

- ・「事業も個人も、過去を振り返り、未来を見つめることが大切」
- ・といわれるが、（A）日々その時間を持ってなかった
- ・加えて、（B）それらを話し合う糸口も見えなかった
- ・そして、モヤモヤしながら、人とながれない数年が過ぎていった

↓これらA・Bを解決する場が、中小企業家サミット2023です。

- その理由は…
- ・コロナ禍で各自が振り返る時間（A）が持てたこと
- ・各自が振り返った想いを「R」で共有する場（B）に23サミットを設定したと

「R」を旗印に集う場が23サミットであり、そこでの語らひはみなさんにとってかけがえない原石となるはずです。

2019年末からはじまった新型コロ

ナウイルス禍。この三年間、それぞれが振り返りをしたり、想いを固め行動したりと様々だったかと思います。また、コミュニケーションの取り方も大きく変わりました。いままで当たり前だった、例会という「場」に会すこと、名刺交換で挨拶をかわすこと、グループ討論前後での雑談。そして懇親会でポロっと出る本音に心を通わせる時間。これらが当たり前でなかったと気がついた年月でした。

中小企業家サミットは東京同友会で最大規模の学びの機会。支部・委員会・部会を超えて、横断的に会員が一堂に会する「場」です。今回の23サミットでは、コロナ禍でみなさんが温めてきた想い（いうならば原石 Rough Stone）を「R」というシンボルのもとに磨き合う場所にしましょう。

新会員のみなさまへ 「サミットの歩き方」

中小企業家サミットの活用法を参考まで。ここでもキーワードは「3つのR」です。

リング
Ring：輪。

リップル
Ripple: 波紋 (輪のつながり)。
リファレンス
Reference: 参照参照。

すなわち、つながって、共感して、困ったときには頼りにしようを意味します。

Ring: 支部、委員会、部会を超えて人の集まるサミット。まず、つながりましょう。

Ripple: 雑談、対話、ディスカッションを通して、共鳴共感を。

その共感の先には、まだ見ぬ人とのつながりとなるはずです

Reference: 「同友会の会員は、ひとりひとりが辞書」とは会員であればどこかで聞く言葉。困ったとき、頼れるものこそが同友会のつながりです。

「弱いつながりと強いつながり」という人間関係の研究が長年なされています。

参考) 原典論文: The Strength of Weak

Ties by Mark S. Granovetter (1973)

なにか困ったことが起きたとき、身近な人(つながりの強い人)からよりも、なんとなくつながった人(弱いつながり)から思ってもよらぬアイデアやつながりをもらえ

た、という経験はみなさんあるのではないのでしょうか。

サミットに限らず、支部例会、もしくは他の会合で出会った人は最初は「弱いつながり」の状態でしょう。しかし、そのようなつながりから思わぬヒントがもたらされる可能性があるのです。

さらに、弱いつながりの先には強いつながりもあるのも人間関係。先述の「同友会の会員は、ひとりひとりが辞書」と照らし合わせれば、強いつながりの基盤があるのも同友会の魅力です。

最後にみなさまへ

このコロナ禍でしばらく連絡が途絶えていた関係。こちらも23サミットで顔を合わせ、ぜひ情報と関係のアップデートを。三年を経た今、新しい発見が待っているはずです。

(組織広報部門 原田健也)



「R」テキスト



「R」動画



「R」単語リスト

実行委員会 初参加

実行委員会に
初参加の会員さんへ

インタビュー



児玉直樹

(株)彌彦工務店
(杉並支部)

はじめまして。サミットには昨年の22サミットで初参加をして、今回は実行委員会として皆様に助けていただきながら、担当をさせていただきました。例年と違い今回はスローガンではなく1単語の「R」となっています。私の「R」ですが弊社は祖父の代から地元の杉並区を拠点に活動をしている工務店になります。おかげさまで今年で創立62年になります。祖父から受け継いできた人脈や、地元のみなさんとの交流によりお仕事を頂いている事等自分にとっては「ROOTS 起源や由来」になります。自分のルーツを大事にしてこれからも地元へ貢献していきたいと思えます。